

# 図書館だより 第9号

## 7階特別室・郷倉千靱画伯の壁画下絵と

### 長女、郷倉和子さん



平成14年度の文化功労者に、富山県ゆかりの郷倉和子さんが顕彰されました。それにあわせて、富山県水墨美術館でも「梅花の調べ - 郷倉和子展 - 」が催されました。実はあまり知られてないことですが、わが富山市立図書館の7階特別室にも、和子さんの『梅C』(左写真)という作品と、その父、故郷倉千靱画伯の壁画下絵が飾られています。

この壁画下絵の本体は、東本願寺の婦人会館のためにつくられた『釈尊父王に会い賜う図』と四天王寺の壁画『仏教東漸』<sup>とうぜん</sup>ですが、その下絵が現在の市立図書館新設時に千靱画伯本人によって寄贈されたものです。

今回の展示会にあわせて、和子さんご本人が富山にいらした折に図書館にも足をお運びくださいました。下

絵を眺めながら、「父は本当に丁寧な仕事をする人だった」と和子さん。下絵も壁画そのままというお話で、千靱画伯が下絵に忠実に丁寧に、壁画を描いたということがうかがわれました。

また、特別室前室に飾られている和子さんの作品『梅C』は、昭和50年代かそれ以前の若いころに描いたものだそうです。なぜCなのか、他にも組になっている絵があるのかどうかお伺いしたのですが、それはちょっと覚えておられないそうで、残念でした。和子さんはこの絵を眺めながら、若かりしころを思い出しておられたのでしょうか、懐かしげに目を細めていらっしゃいました。

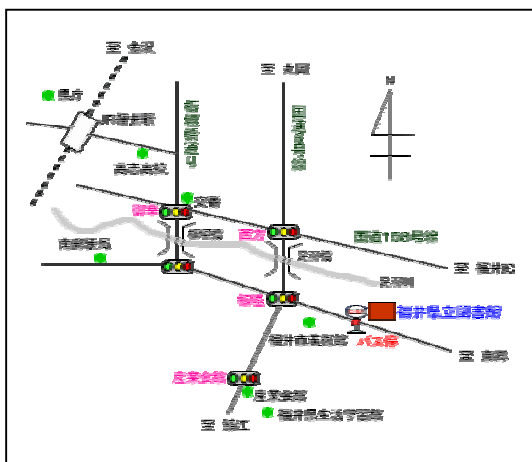
水墨美術館で郷倉和子展を開催している間(2月22日~3月23日) 図書館の方にもその特別室の壁画を見に、延べ450人ほどの来館者がありました。特別室は普段鍵が閉まっておりますが、もしご覧になりたい方があればどうぞ6階事務室のほうまでお申し出ください。

(中央館・宮本)



## 図書館の新しい動き

### 地域に開かれた「知識の収蔵庫」～福井県立図書館～



#### < 施設の概要 >

今年2月1日、延床面積1万5千平方メートル、開架冊数30万冊、駐車場台数400台、いずれも旧館の約3倍のスケールを持った福井県立図書館が新設オープンしました。

福井駅より東へ約15分、市街地をぬけ景観がいきなり広がりを見せる福井市下馬町に、福井県立図書館が在ります。

まず目を引くのが、上に開くという重厚な珍しい造りの扉で、エントラスホールの正面からは、総ガラス張りの壁面の向こうに、水を満々とたたえた人工池と遠景の山々を見ることができます。図書館のキャッチフレーズである「庭園図書館」の面目躍如といったところです。

#### < 一般資料コーナー >

30万冊を公開している開架書架スペースは、五つの主題（自然科学・社会科学・人文科学・文学・百科事典・特定資料）に区分され、全く段差のないワンフロアを平面移動するだけで利用できるようになっていました。ここでも、図書館を90度に取りまく山並みが、総ガラス張りの館内から一望できます。

このことは、読書を止め本から目を離れた時、利用者が一種の「やすらぎ」を得ることができるように設計されているのだな思われました。今後、この部屋から眺めるすばらしい景観が喪失されないように願うばかりです。

開架書架群は、まるで本の林に入ったかのように整然と並んでいましたが、書架と書架の間は、車椅子がすれ違うことができるように、十分な幅が取ってありました。また、書架にはすべてトップライトがはめ込まれており、ふんだんに入る外光をセンサーが感知し、場所ごとにその明るさは調整されていました。ブックカートを押しながら、館内をゆっくり本を探して歩く利用者の姿が印象的でした。



### <こども室>

同館は、県立図書館としては珍しく児童サービスに力を入れている図書館でしたが、新館建設に当たってもこの考えが大きく反映されたようで、フロアの一角に 610 平方メートルの「こども室」が設けられておりました。ただ、残念なのは、一般スペースとガラス壁で区切られているためか、室内の雰囲気が少し冷たく硬い印象を受けました。絵本の読み聞かせや、おはなし会を催す「おはなしの部屋」は独立しており、光をシャットアウトして特別な空間を演出していましたが、防音設備が完全でなく少し問題があるとの職員からの苦情をお聞きました。

### <情報コーナー>

新時代の図書館サービスの一つである情報化への対応については、所蔵資料を検索する利用者検索用端末が 22 台、CD-ROM 閲覧端末が 4 台、インターネット開放端末が 4 台設けてありました。また、持ち込み用ノートパソコン専用席が 15 席設けてあり、それぞれの机の上には電源コンセントと LAN ポートが備えてありました。

図書館としては、これら情報機器の活用によって「情報水先案内人」としての役割を積極的に果たしていきたいとの考えだそうです。

また、インターネットによる予約受付のシステムも稼働し、利用者は最寄りの市町村立図書館において図書を受取りや返却ができるようになったことから、市町村立図書館に対する支援体制が一層強化されたこととなります。

### <他の施設>

**郷土文学・郷土資料コーナー**：福井県にゆかりのある作家の作品、福井県が登場する文学作品（約 4 万 5 千冊）

**環日本海資料コーナー**：中国・浙江図書館から寄贈を受けた「浙江文庫」、中国・朝鮮半島・ロシアの資料

**視覚障害者サービス**：対面朗読室（資格障害者用検索端末を設置）、点字録音図書室、点訳録音室  
なお、フロア全体で 5 箇所のサービスカウンターが設置されていました。

設計はプロポーザル（競技募集）方式が導入され、「県内どこに住んでいる人にも、均等なサービスを」を理念に新スタートした福井県立図書館。開館以来、土・日曜日の利用者は、一日 5000 人を越すという盛況ぶりからして県民の期待の大きさがうかがえます。

（中央館・富川）

## 第 4 5 回 「こどもの読書週間」中行事案内

おはなしワールド 4月23日(水)

メイン会場：ハイビジョンセンター(高度情報センター内)他3ヶ所

こどもの本・展示会 4月23日(水)～5月11日(日) 9時30分～17時

図書館7階 特別室

こどもの本リサイクル広場 5月4日(日)10時～15時

図書館3階 会議室

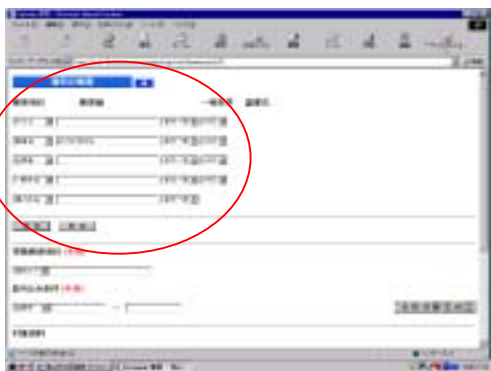
# インターネットで 予約ができるようになりました！

インターネット予約をご利用になるには、**図書利用カード**と**パスワード**が必要です。パスワードの登録は、もよりの図書館窓口にお申し込みください。

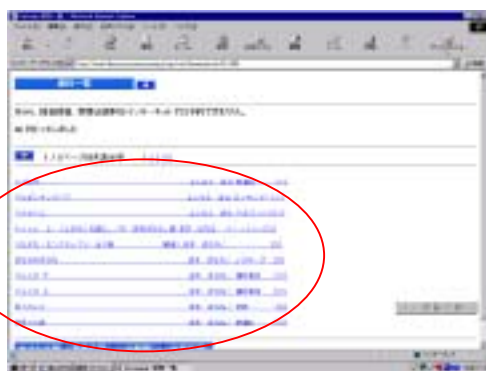
富山市立図書館のホームページ  
(<http://www.library.toyama.toyama.jp/>) を開き、「**蔵書検索・予約**」をクリックしてください。



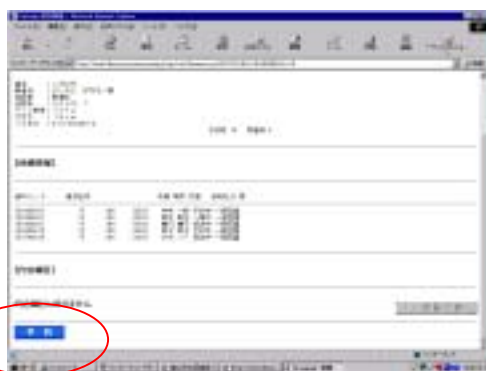
「タイトル」「著者名」などを入力して、画面の一番下にある「**検索**」ボタンを押してください。



一覧が表示されたら、お探しの資料をクリックしてください。

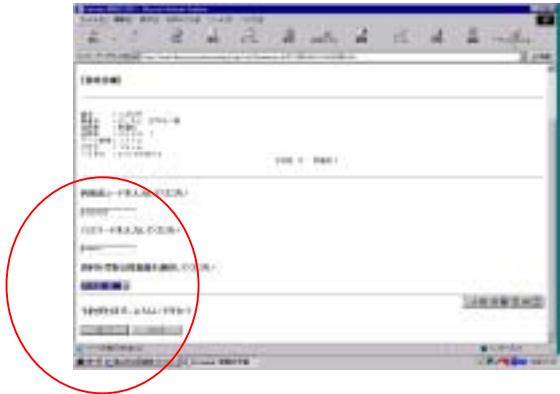


詳細な資料データが表示されますので、画面下部の「**予約**」をクリックしてください。

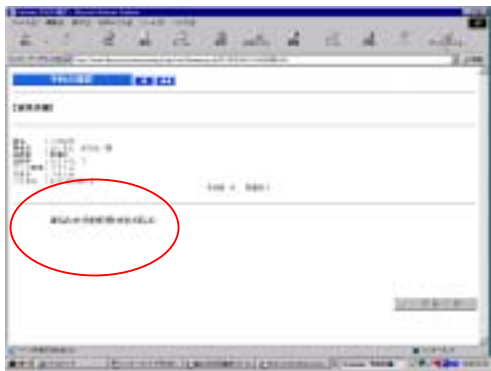


\* 「**予約**」が表示されないものは、AV・録音図書・禁帯出資料です。これらはインターネット予約はできませんので、ご了承ください。

「利用者コード」(図書利用カードに印刷されている8桁の数字)と「パスワード」(\*で表示されます)をそれぞれ**半角英数**で入力し、資料の受取りを希望される館を選択してください。OKならば「はい」をクリックしてください。



「あなたの予約を受け付けました」という表示が出たら終了です。



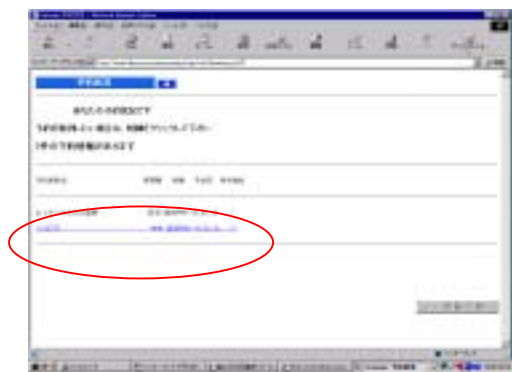
ご予約の資料が用意できましたら、電話もしくはEメールでお知らせいたします（Eメールでの連絡を希望される方は、パスワード登録時に、申込書にEメールアドレスをご記入ください）。

トップページの「予約資料確認」「貸出資料確認」をクリックすると、あなたの現在の予約状況、貸出状況が確認できます。



予約資料確認画面からは、申し込んだ予約の取消ができます。

なお、ここで取り消しできるのはインターネットから予約した資料のみで、**青字（下線付き）**で表示されています。黒字になっている資料は、図書館の窓口で直接申し込みされた予約です。この場合インターネットでの取消はできませんので、取消を希望される時は、申し込まれた窓口へご相談ください。



- ・ インターネット予約は、お一人につき窓口の予約とあわせて**10件**まで可能です。
- ・ 在庫の資料については、窓口での貸出を優先しますので、予約資料を確保するのに時間がかかる場合があります。

インターネット予約の開始にともない、携帯電話からも蔵書検索・予約ができるようになりました。iモード用のアドレスは、<http://www.library.toyama.toyama.jp/i/>になります。

## 私のおすすめ本 \* \* \* \* \*



『光』  
日野啓三著  
文藝春秋

意気地のないことだが、読もうと買った本を途中で開けなくなったことが何度かある。退屈してとか、予想と違っていてとかいうことではなく、興味をひかれ好奇心ももうずうずして前に進みたいくせにひるんでしまったということが。

例えば、随分昔のことになるが、「即身仏」について調べようと繰っていた本の見開きいっばいに法衣を纏ったミイラが写っていて驚きで取り落とし、しばらく触ることさえできなかったこと。それから、横尾忠則が挿絵を描いていた江戸川乱歩全集の中の一冊では白目の部分が真っ赤に塗られた男の顔が眼前にワッと広がって、咄嗟に本を閉じてしまったこと。どちらも結局読むには読んだが、用心深くページを繰ることは忘れなかった。

さて、日野啓三のこの本には挿絵も写真も挟まれてはいない。2020年頃を想定した、日本の月面基地から帰還した元宇宙飛行士の物語だ。彼は月面で経験してしまった何かのために記憶を失っている。逆行性健忘症として入院させられていた病院を抜け出し、時折甦り始めた記憶の断片に衝き動かされるように宇宙基地のある北海道に現れ、ロケット発射場が遠望でき

る雪の丘に佇み、住所として無意識に書いてしまった所番地を尋ねてまた東京に戻る。財布を盗まれるというアクシデントがあり、ついにはホームレスの群れに身を置くことになる。

この元宇宙飛行士を監視、というよりは共感をもって見守る宇宙開発局の課長や中国人の看護婦、そしてホームレスの老人などが絡んで物語は展開するのだが、緊張感のある文章に引きずられながら、いつの間にかブレーキを踏むタイミングを計っている自分に気が付いたのだ。そろそろ本を閉じたいと。

そして、本当に読み進むことをやめた。月面におけるあらゆる場面に備えて訓練された飛行士が記憶を喪失するほどの出来事、それは死に限りなく近接することに違いないにしても、明らかに人間の精神の根源に迫る何物かであるはずだったから（日野はそれをこそ書く作家だったから）自分には読み取り得ないのではないかと恐れて逃げたのだった。

好んで読む現代作家が何人かいる。店頭で題名に魅かれてという場合もあれば、何かの文学賞を得て掲載されたのを機にとということもある。だが、どうして日野啓三を読むようになったのかが定かではなく、いつの間にか近い人の一人になっていた。日野流の言葉で言えば、微妙ではあるけれど「交感」できるものがあつたということになるだろうか。

昨秋、氏の訃報に出くわして、「光」を積み残していたことを思い出した。胸に痛みがあった。日野啓三が探していたものを、とうとう一人で探しに行かなければならない。それが何であるかもよくわからないままに。

（山口 馨）

**執筆者紹介** 富山市在住。文芸同人誌『渤海』同人。同誌上にて小説発表。

『扇状舞台』等県内誌に掌編小説・エッセイ等寄稿。趣味はトレッキング、茶道、旅行。

## 山田孝雄文庫の資料 9

富山市出身の国語国文学者山田孝雄博士の旧蔵書約18,000点が富山市に寄贈されたのは平成8年12月のことでした。平成9年10年には洋装本10,206点の整理を終え、平成11年11月には、その冊子型目録『山田孝雄文庫目録 - 洋装本の部 - 』を刊行し、山田孝雄文庫を開設して公開しています。

平成12年度からは残る和装本約7,000点の整理を開始し、書名一覧と山田孝雄文庫目録和装本の部の目録原稿を作成しています。平成16年度末には目録原稿を作成し終え、17年度中には冊子型目録『山田孝雄文庫目録 - 和装本の部 - 』を刊行したいものと思っています。



洋装本は殆どが明治以降に出版されたものですから、目録の情報源は当該図書中にあり、目録作業も比較的単純でさほど大きな誤りをおかすこともありません。

しかし、これまでにこの「山田孝雄文庫の資料」でいくつか紹介したように、和装本は書名などが見当らないものが多く、整理作業はなかなかかどりません。和装本には、明治以前の版本、写本、漢籍が含まれ、特に書名が見当らない写本や、和書とはまた出版の習慣が異なる仏典や漢籍は目録化には専門的な知識が必要です。このため当初は元成城大学学長山田俊雄先生、元上越教育大学教授渡辺英二先生、国立国語研究所山田貞雄主任研究員に、そして現在は聖心女子大学教授奥田勲先生に、監修というかたちで目録作業の指導をしていただいています。

## 山田孝雄文庫の整理

また、日本学術振興会特別研究員の平野多恵さんにもお手伝いいただきました。

奥田勲先生は日本の中世文学が専門で、特に連歌に関して造詣が深い方です。これまでに『高山寺経蔵典籍文書目録』『連歌師』『明恵 - 遍歴と夢』『石山寺の研究』『千句連歌集 2』『千句連歌集 5』『歌論・連歌論・連歌』『宗祇』『新撰菟玖波集全釈 1 - 3』『カリフォルニア大学東アジア図書館蔵古経コレクション目録稿』など(人名録等に記載されている範囲。実際にはもっと多くの研究がある)の著作を著しておられます。いずれも専門的な著作ですが、私たちには『新潮現代国語辞典』の編集者の1人という方が分かりやすいかもしれません。

文化財保護審議会専門委員を務め、石山寺その他多くの古寺で文化財調査団のメンバーとしても活躍しておられます。『石山寺資料叢書』のなかには奥田先生の解説が多く見られます。また著作からもうかがえるとおり、海外でも活躍され、現在も定期的に米国の大学図書館に赴いて古典籍の目録編纂に携わっておられます。

平成13年度から山田孝雄文庫の調査をしていたが、これまで書名が分からなかったものを70点ほど明らかにしていただきました。

古典籍の調査は、調査に用いる道具の良否や多寡が調査の精度や能率を制すると言われます。しかし、富山市立図書館のように国文学専門書の蓄積が少ない図書館での調査には、古典籍調査経験の豊富な専門家の指導・監修が必要不可欠です。  
(中央館・亀澤)



## レファレンスあれこれ

Q . 富山市にあった室屋町は、今の室町通りと同じか。

また、実家の屋号が室屋だが、室町通りと関係があるのか、それとも別の理由でこの屋号がついたのか。

A . 現在ではあまり使われない屋号についての質問があった。

まず、『角川日本地名大辞典 富山県』を見ると、室町通り 1 ~ 2 丁目についての記述があった。しかし、1 丁目は鍛冶町、木材町の各一部、2 丁目は鍛冶町、上金屋町の各一部であったとあり、室屋町とは関係がないようだ。

そこで、『富山県の地名』(平凡社)を見ると、室屋町についての記述があり、現在の中央通り 2 ~ 3 丁目・堤町通り 2 丁目にあたと記されていた。

念のため、位置関係を確認したところ、室屋町は、現在の室町通りとかなり近い位置にあったことがわかった。

次に、屋号の室屋については、タイトル検索で、屋号と検索したところ 12 件の資料があることがわかった。しかし、富山市に関する屋号が載っている資料としては、『いわせの屋号』しかなかったが、岩瀬の 1700 戸の家々についての調査が行われこの資料には、同じ室屋の屋号を持つ家が数件載っており、酒、味噌、醤油を造る室屋であったため、この屋号がつけられたということが書かれていた。

平成 15 年 4 月 21 日 富山市立図書館 編集・発行  
富山市丸の内 1 丁目 4 - 5 0 TEL・FAX 076-432-7272  
HP アドレス <http://www.library.toyama.toyama.jp>  
E - m a i l lib-02@library.toyama.toyama.jp

Q . 「肩車」のことを富山県の方言では、  
どう言うか。

A . 県外の方より、メールで上記のような質問を受けた。

まず、最初に見た『現代日本語方言大辞典 2』(明治書院)には、「カタキユッキユ」、五箇山では、「テングルマ」と言うこと記されていた。

次に、『おらっっちゃらっちゃの富山弁』(蓑島良二著 北日本出版社 平成 4 年発行)、『とやま弁にしひがし』(太田栄太郎著 北日本新聞社昭和 50 年発行)には、「肩車」に関する記述はなかった。

そこで、平成 13 年に北日本新聞社から出版された、蓑島良二著『日本のまんなか富山弁』を見て見ると県内各所の「肩車」の方言が載っていた。

ちなみに、デングルマ、カタボンボ、サルイッチャ、サルボンボ、タカタカボンボ、チンチンボンボ、ヤマボンボなどいろいろな言い方があるらしい。

(中央館・柴田)

